

(参考) 外国人材の受入れ・共生のための地域日本語教育推進事業 新たな取組 (地域日本語教育の質の維持向上) について

文化庁資料より抜粋
(令和4年度 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業実施団体 情報交換会)

質の保証 (新たな取組) (従来の取組に加え、新たな取組を行う都道府県等へ補助率加算 最大2/3予定)

- 「生活」に関する教育課程を置く機関または専門的な日本語教育機関との連携による、以下のような日本語教育を重点的に強化
 - ・「日本語教育の参照枠」及び「生活Can do」を参照した質の高い日本語教育
 - ・「地域における日本語教育の在り方について (報告)」で示されるレベル・時間数に応じた体系的な日本語教育

○地域における日本語教育の在り方について (報告) (令和4年11月 国語分科会日本語教育小委員会) より抜粋

【生活Can do】「生活者としての外国人」対象の言語能力記述文
「日本語教育の参照枠」を踏まえた、A1からB1までの内容

No.	言語活動	カテゴリ	レベル	Can-do	生活上の行為の事例				
					大分類	中分類	小分類	事例1	事例2
1	読むこと	世情を把握するために読むこと	B1	適切な医療機関を選ぶために、病院のサイトなどの、ある程度長い文章に目を通して、診療科目や診療内容など、必要な情報を採り出すことができる。	I健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関を選択する	選択する病院を知る
2	発表	長く一人で話す・経験談	B1	体調が悪く、医療相談窓口で電話したときに、相談員に自分の症状や症状の変化について、順序だてて説明することができる。	I健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関を選択する	症状の変化を説明する
3	読むこと	世情を把握するために読むこと	A1	健康診断や定期検診などで指定された病院のホームページにアクセスし、診察日や時間を確認することができる。	I健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関を選択する	開院時間を確認する
4	やり取り	店や公共機関でやり取りをする	A2	電話で病院や歯医者の予約をするとき、ゆっくりとはっきりと話されれば、名前や電話番号、日時、診察理由など病院のスタッフの質問に答えることができる。	I健康・安全に暮らす	01健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関を選択する	予約を申し込む

【学習時間の目安】 自立した言語使用者 (B1程度) としての日本語能力の習得

到達レベル	想定学習時間
0 ~ A1レベル	100~150時間程度
A1~A2レベル	100~150時間程度
A2~B1レベル	150~220時間程度
B1~B2レベル	350~550時間程度

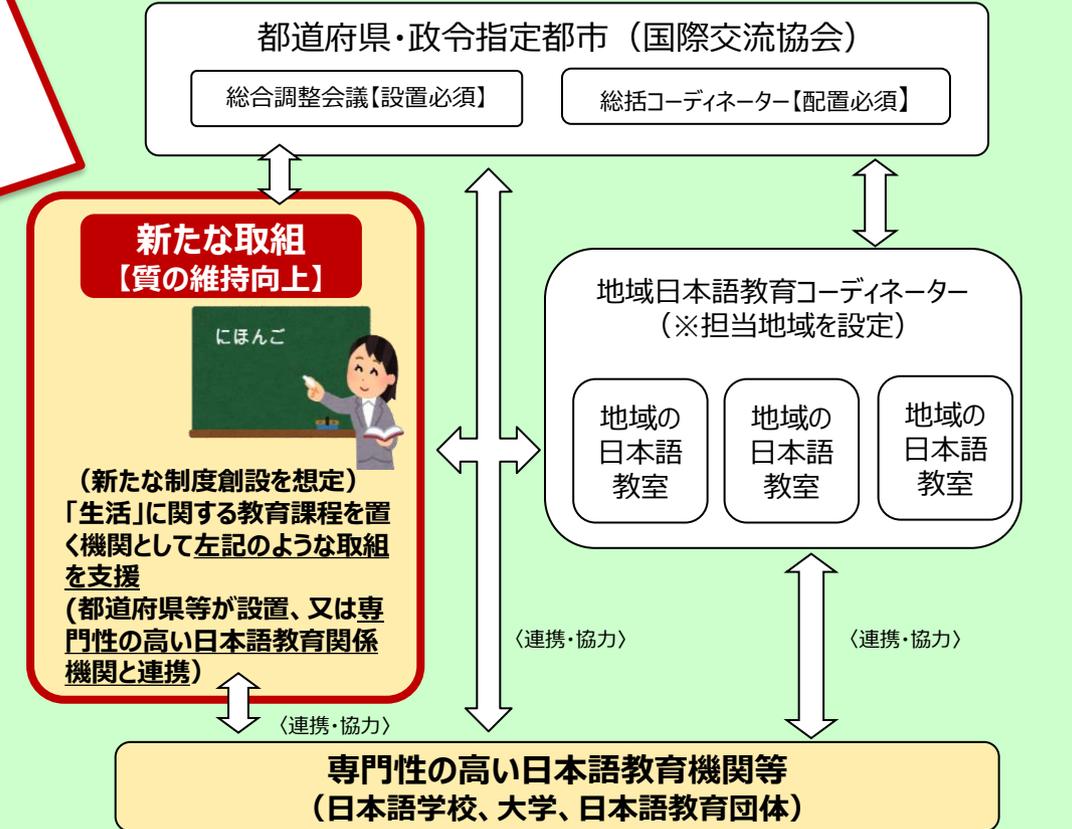
総学習時間 (1日4コマ、週3~5日程度の集中的な学習を想定)

◎ 0~B1レベルまで	350~520時間程度 (470~780単位時間程度 (1単位時間 45分))
<参考> 0~B2レベルまで	700~1070時間程度 (933~1426単位時間程度 (1単位時間 45分))

具体的な内容とイメージ図

「生活」に関する教育課程設置、または専門的な日本語教育機関との連携による、「生活Can do」を用いた質の高い日本語教育プログラム開発・提供のための

- ①調査や計画策定、②プログラムの開発・実施・試行、③教材開発や評価の開発、教材作成、④研修の実施
- ⑤②~④を行うことのできる日本語教師の雇用や活用





・「生活Can do」を活用した教育内容整備による到達レベルの担保

※～B1、五つの言語活動を含むプログラム開発

・教育課程の複数年開発可能
・オンライン可能
・オンデマンド可能
・文化庁委託事業で開発中の教育モデルを活用可能

① 日本語教育の全国展開・学習機会の確保【従来】

各地域での日本語教育環境を強化するための総合的な体制づくりを目的とした取組

○想定される取組（例）

I 広域での総合的な体制づくり

① 総括コーディネーター経費の設置

② 地域日本語教育コーディネーターの配置

II 地域の日本語教育水準の向上（域内での日本語教育の展開）

III 都道府県等を通じた市町村等支援（間接補助）

② 質の維持向上【新規】

「生活Can do」を用いた、「生活」に関する教育課程の提供（設置または連携による実施）を目的とした取組

○想定される取組（例）

- I 調査や計画策定
- II 質の高い日本語教育プログラムの開発・実施・試行
A1、A2のクラス実施（共に100～150時間程度）
B1のクラス実施（150～220時間程度）等
- III 教材開発や評価の開発、教材作成費用
- IV 質の高い日本語教育プログラムの開発・編成・試行するための研修の受講や実施
- V II～IVを行うことのできる日本語教師の雇用や活用

- ・日本語教室の実施箇所拡大
- ・日本語教育人材の発掘・拡大
- ・日本語教育の理解促進 等

①と②の関係…有機的に連携した取組例



総合調整会議

①の総合調整会議で、体制づくりの議論に加え、②の「生活」に関する教育課程設置または連携に向けた調査や計画策定について協議。



カリキュラム開発・編成

①の総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーターを中心に、②の日本語教師、外部有識者とともに、カリキュラム開発・編成に当たる。

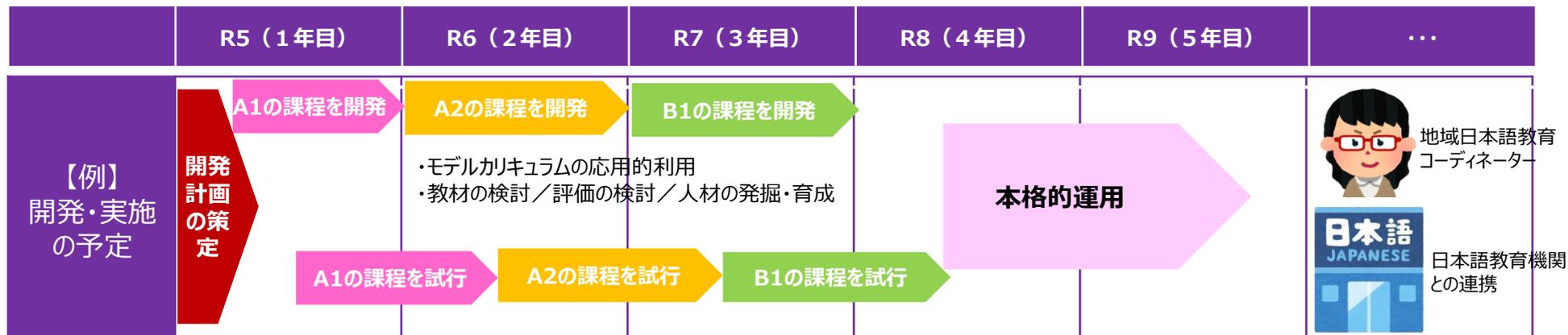


域内への普及

②で開発したカリキュラム等は、①の地域日本語教育コーディネーターによって、②IVの研修等を踏まえ、①II、IIIの地域の日本語教室にも普及することを想定。

【①従来の取組】+【②新規の取組】を含む事業 → ②を実施する団体に対する補助率加算(最大2/3予定)

新たな取組（地域日本語教育の質の維持向上）について（その③）策定・開発・試行イメージ



0 広域での総合的な体制づくり

総括／地域日本語教育コーディネーターの配置
【日本語教育機関との連携】

1 モデルカリキュラム／ツールの活用

- 「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業の「生活」分野の教育モデル
- 日本語能力評価ツール「にほんごチェック！」を活用

2 「生活」の教育課程を設計・試行

- 複数年度の段階的な設計・施行
- オンライン活用 ○オンデマンド活用（つなひろ等）

オンラインを活用した効果の高い教育

オンデマンドを活用した効率的な教育

コースの例(1) 学習時間：3時間（4単位時間）×3日/週9時間（12単位時間）
2年間 計576時間（768単位時間）

年	月	学習期間・時間	レベル
1年目 288時間 (384単位時間)	4～6月	8週間：72時間 (96単位時間)	1年目開発 A1 聞く(聴く) 読む(読む) 話す(話す) 話す(聴く) 書く(書く) 文字
	7～9月	8週間：72時間 (96単位時間)	
	10～12月	8週間：72時間 (96単位時間)	
2年目 288時間 (384単位時間)	1～3月	8週間：72時間 (96単位時間)	2年目開発 A2 聞く(聴く) 読む(読む) 話す(話す) 話す(聴く) 書く(書く) 文字
	4～6月	8週間：72時間 (96単位時間)	
	7～9月	8週間：72時間 (96単位時間)	3年目開発 B1 聞く(聴く) 読む(読む) 話す(話す) 話す(聴く) 書く(書く) 文字
	10～12月	8週間：72時間 (96単位時間)	
	1～3月	8週間：72時間 (96単位時間)	
	4～6月	8週間：72時間 (96単位時間)	

※1単位時間は45分